

夏は終わらない その8

301となって、夏はもうすぐ秋に移り代わって行きます。昔から、土用が過ぎると海に近づくなという大人の言葉がどういう意味か分からなくて、海の波しぶきが恋しくて波打ち際で遊んでいると、時折大きな波がやってくることもあり、あつという間に体を持っていかれるという経験によって、大人の言葉の意味を体感したことがあります。

明日8日は、立秋です。土用も明けます。昔の人の様々な暦をめぐる生活の様式の形づくりは、今の世となつては軽視されがちですが、必ずそこには根拠が潜んでおり、その根拠を調べることによって、どんなことをよすがにして人は生活してきたのかがわかり、心からその人々の暮らしの有り様が素晴らしいものであるかがわかって、心から感謝すべきであると思うことができます。

夏は本日までは終わりませんが、明日からはまさしく秋を迎えることでしょう。

秋は、実りの秋です。収穫の秋です。種をまいたものが育ち、それが身になり収穫することができる喜びはこの上もないものであります。

種をまくことが遅かった場合、刈り取ることができるのはまだ先となります。刈り取る楽しみはもう少しアづけることとして、せっせと養分を蓄えていかなければなりません。

今年の夏は、キュウリなどの実物は日照不足が原因で今一つ実りがままたまらないのです。茄子もカボチャも、インゲン豆もスイカも、花が咲くより葉が赤くなることもあり、心から心配しました。

お盆の季節は、必ずいんげんまめをごまよごしにして仏さまにあげる習慣があります。いんげんまめは、ささぎとも言います。

ジャンガラ踊りの歌にも、その様子がうかがえます。

盆てば米の飯 おてつけば茄子汁 十六ささぎのよごしはどうだい
いわき平で 見せたいものは 桜ツツジと じゃんがら踊り

小名浜や豊間、沼之内、四倉など浜の方では、
「赤井嶽から 七浜見れば 出船入船 大漁船」
以下いろいろあり。

"早く来い来い 七月七日 七日過ぎれば お盆様"

"鉦や太鼓は だてに叩かぬ 仏の供養だ 南無阿弥陀仏"

"念仏申したって だてには申さぬ 仏の供養だ 南無阿弥陀仏"

"盆はうれしや 別れた人も 晴れてこの世に 会いに来る"

"じゃんがら念仏で 供養すれば 地下の仏さんも うれしかる"

"念仏するのは 仏の供養 田の草取るのは 稲のため"

"稲にゃ穂がでる 日和は続く いわき平は 盆おどりよ"